

## ボランティア in ネパール 地球人・山本健一さんに聞く

6月20日(水) たつの市民大学「赤とんぼ学園」において、ボランティア「Genki」の山本健一さんによる「ネパールと日本」と題した講演がありました。

2015年4月にネパールで起きた大地震の後、支援物資690キロと学校再建資金400万円を現地へ届けるボランティアの経験が話されました。今年5月には天候不良で飛行機が飛ばなくて、ヒマラヤの空港のある村で3日



ネパールの小学校 カトマンズから4時間

間足止めになったそうです。昨年の秋の支援では熟年者中心のチーム10数名が大量の物資を航空手荷物でネパールへ運搬。その様子をパワーポイントのスクリーンに映して説明されました。

ご承知のようにネパールはインドの北に位置し、国土の大半は山岳地帯。登山観光のほかは産業に乏しく、若者が中東やアジアの国に出稼ぎに行っています。若者の40%が出稼ぎともいわれています。山間部へは車が通る道がなく、2日間歩いて小学校へ物資を届けるといいます。山本さんは淡々と話されますが、体力もいる支援の旅です。

山本さんは「ネパールの山間地の多くの方が農業に従事。1日を畑仕事で過ごします。毎日が生きるための活動です。昔から続



赤とんぼ学園で講演

けて来た日々が今も続いています」と言います。また「ネパールの人の生きるための生活と、物は豊かだが、思いもよらないような事件の起こる今の日本。どちらが幸せなのか」と考えたら、「どちらも幸せと言えるし、また、どちらも不幸と言える」と話されました。

山本さんが、なぜネパールへ行くのか？ それは地震被害で困っている人の復興の手助けが、いくらかでもできれば、と思っていると言われました。

【取材・文責：長尾智子  
浜田多代子】

## 日本語教室 そのこは国際交流

たつの市に日本語教室があることを知っておられますか。毎週3回。火曜日の夜と木曜日と土曜日の午前で開催。近年、日本に来て仕事をし、生活する外国人が増えています。たつの市にはおよそ500人の外国人が住んでいます。その人たちにとって日本語が使えることは大事です。たつの市



日本語教室

国際交流協会の会員が中心になって日本語教室を開催しています。受講生は10人ほど。教室では生徒と先生の関係ではありませんが、生徒は日本の文化を知り、先生は生徒の国の文化を知る。日本語教室、そこはまさに国際交流の場です。受講生は中国人が多く、他にベトナム、ペルーなどの方。これからの時代は多文化共生の時代です。

### 日本語は 日本語で教える

日本語教室の先生は特別の語学はいりません。日本語で読み書き、話ができること。そして、週に1回2時間ほど自分の時間



日本語教室

を割いて日本語教室の講師としてのボランティアができることが条件です。みなさまも日本語教師になりませんか。

【問い合わせ】  
たつの市国際交流協会事務局  
0791-63-0221

【取材・文責：山本健一】